

エクササイズ1

4 - (10)

6千人の命のピザ



中学2・3年



夫は外務省を辞めさせられることも覚悟していました。「いざとなればロシア語で食べていくくらいはできるだろう。」とつぶやくように言った夫の言葉には、やはりぬぐい切れない不安が感じられました。「だいじょうぶだよ。ナチスに問題にされるとしても、家族にまで手を出さない。」それだけの覚悟がなければできないことでした。

その日も朝早く、人々はまだ暗いうちから集まってきていました。夫が表に出て、鉄さくごしに「ピザを発行する。」と告げたとき、人

人の表情には電気が走ったようでした。一瞬の沈黙と、その後のどよめき。だき合ってキスし合う姿、天に向かって手をあげて感謝の祈りをささげる人、子どもをだき上げて喜びをおさえきれない母親、窓から見ているわたしにも、その喜びが伝わってきました。

その日、夫は事務所におりたきり、昼食どきになってももどつてきません。翌日も夫は昼食をとりません。朝九時から夕方遅くまでピザを書き続けていました。そういう日が何日も続きました。

はじめのころ、夫は一日に三百枚のペースでピザを書くつもりでいました。すべてを手書きで、しかも一人一人の名前をまちがえないように書くという手間のかかる作業です。知らず知らず手に力が入ってしまいます。万年筆が折れ、ペンにインクをつけて書くという日が続きました。一日が終わると、夫はぐったりとつかれて、そのままベッドにたおれこむ。痛くて動かなくなった腕をわたしがマッサージをしていると、ほんの数分もたないうちにねむりこんでしまっている状態でした。

それでも翌朝には、朝早くからピザを書き始めます。外にはまだおおぜいのユダヤ人が順番を待って朝から晩まで立っています。外はもう寒いのに、早い順番をとろうと領事館のある公園でねとまりしている人もいました。やっと順番がめぐってきて、夫にひざまずいて足下にキスをする女性もいたそうです。

そんな状態が二十日余りも続きました。その間、ソ連からの退去命令が数回ありました。また、それ以前の八月二日に、外務省から“領事館退去命令”が出されていきました。それらを無視して夫はピザを書き続けていたのです。もうこのころには気力だけで書き続けているのがそばで見ているわたしにもよくわかりました。

わたしたちをせき立てるように、再度「すぐ引き上げる」という外務省からの連絡が届きました。国境が閉ざされてしまえば、国外に脱出することができなくなりそうです。

九月五日の早朝、カウナス駅でベルリン行き国際列車を待っているときにも、ピザを求めて何人かの人が来ていました。汽車が走り出すまで、窓から身を乗り出して夫はピザを書き続けていました。

汽車が走りだし、夫はもう書くことができなくなりました。「許してください。わたしにはもう書けない。みなさんのご無事を祈っています。」

夫は苦しそうに言うと、ホームに立つユダヤ人たちに深々と頭を下げました。

「スギハラ。わたしたちはあなたを忘れません。もう一度あなたにお会いしますよ。」

列車と並んで泣きながら走ってきた人が、わたしたちの姿が見えなくなるまで何度も叫び続けていました。

(杉原幸子作「六千人の命のピザ」による)

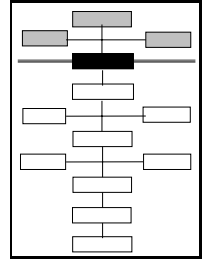
(杉原氏一家は、一九四七年に帰国、氏は三ヶ月後に外務省を退職した一九六八年八月、あの五人の代表の一人であったニシユリ氏は、イスラエル大使館員として来日し、ぼろぼろになってしまったピザを握りしめて、杉原氏と感激の再会をした。

一九八五年、イスラエル政府は、杉原氏に感謝の賞を贈り、エルサレムムの丘に顕彰碑を建て、記念の植樹を行った。)

(「中学道徳 明日をひらく2」東京書籍より)

資料を読んで、内容を理解する

内容：この資料（6千人の命のビザ）を読んで内容を理解し、この資料を通して生徒の考えを深めたいこと（価値項目）は何かを考えてみよう。



生徒たちに話し合わせ、それぞれの意見や考えを聞いてみたいと思う箇所に線を引いてみましょう。

六千人の命のビザ

一九四〇年（昭和十五年）七月二十七日の朝。

「ちよつと窓からのぞいてごらん。」

カーテンを少し開けて、夫はうながすように私を見ます。夫のそばに寄り、窓の外をなげながめて、わたしは自分の目を疑いました。わたしたちの住む日本領事館の建物の周りをびっしりと、黒い人の群れが埋めつくしているのです。カウナスの中心地から少し離れたこの高台は、人通りもあまりなくいつも静かなところでした。

それが一夜にして何百人もの群衆がおし寄せ、動いているのです。

「どうして？」という思いでわたしは夫の顔を見つめました。夫にも、その理由はつかみきれない様子でした。

夫は階下の事務所においていくと間もなく上がってきました。

「ドイツ軍に占拠されたポーランドから、ナチスの手をのがれてユダヤ人が来ている。日本通過のビザを要求しているんだよ。」

鉄さくの外では、血走った目をした男たちがさくを乗りこえようとしています。

「騒然としている状態をこのままにはしておけない。みんなが入ってくるよと収拾がつかなくなる。」

夫はそう判断すると、選ばれた五人の代表と話し合いました。

彼らの求めているのは日本を通過するために必要な「通過ビザ」でした。数人分のビザならば、領事代理だった夫の権限でも発行できます。しかし、何百枚、何千枚となると外務省の許可が必要です。

夫は自分自身の考えでは即答できないことを告げ、その日の会談は終わりました。

夫は一晩中ねむれない様子でした。何度もねがえりを打つのがわ

かります。わたしもあまりねむることができませんでした。

翌朝、外務省に宛てて、第一回の電報が打たれました。

外務省からの返事は「否」。それは夫も予測していた答えでした。

当時の松岡洋右外務大臣は、ドイツ、イタリアとの協力関係を積極的に進めようとしている人でした。ドイツに敵対するような行為を認めるとは思えなかったのです。

それでも夫はあきらめず、第二の電報を送りました。しかし、外務省の意向は変わりません。

そのころ、リトアニアはソビエト連邦に併合され、カウナスにあった各国の領事館は国外に退去してしまっていました。日本領事館にもソ連から退去命令が来ており、また、日本の外務省からも「早く退去するように」という指示が出されていたのです。これ以上カウナスにとどまることは、たいへん危険なことでした。

「ここであの人たちをふりきって国外に出てしまえば、それでいい。それだけのことなんだ。」

二日二晩悩みながら、夫は私に確認するように何度も言いました。

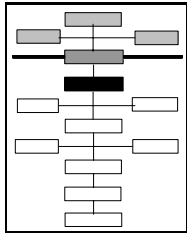
確かに家族の安全を考えるのならば、今すぐ国外へ退去することが最善の方法でした。でも、夫はそれができる人ではないことが、わたしにはよくわかっていました。

外務省への二度にわたる電報には、いつも同じ返事が返ってきました。二度目の「内務省が大量の外国人が日本国内を通ることに治安上反対している。ビザ発行はならぬ」という回答に、夫の心は決まったようでした。

「幸子（ゆきこ）、わたしは外務省にそむいて、領事の権限でビザを出すことにする。いいだろう？」

「そうしてください。」

わたしの心も夫と一つでした。おおぜいの人たちの命がわたしたちにかかっているのですから。



E x 1 -

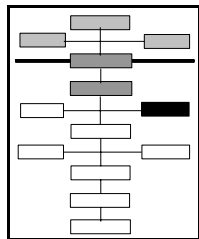
中心となる価値項目を決める

内容：この資料(「6千人の命のビザ」)を通して、特に授業で生徒たちに深く考えさせたいことは何かを考え、授業で取り上げる価値項目を決める。

(⇒ 右のページに記入してください)

この資料に含まれている価値項目は1つとは限りません。考えられる価値項目のすべてを書き出してみよう。

資料の内容と生徒の実態から考えて、この資料を通して生徒に深く考えてほしい価値項目を決めよう。



E x 1 -

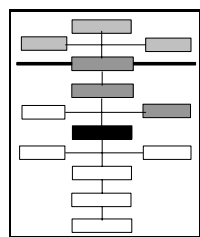
価値項目にかかわる生徒の実態を考える

内容：授業で取り上げる価値項目に迫るために、生徒たちのこれまであった価値項目に関わる具体的な事実を書く。

(⇒ 右のページに記入してください)

授業で取り上げる価値項目にかかわる具体的な事実をつかもう。

具体的な事実をつかむためには、意識調査や観察、他の教科の先生の意見をうかがうなどの方法があります。



E x 1 -

授業のねらいを考える

内容：この資料を通して授業で取り上げる価値項目を達成するための、授業のねらいを考える。
(E x 1 - p, 10~11 参照)

(⇒ 右のページに記入してください)

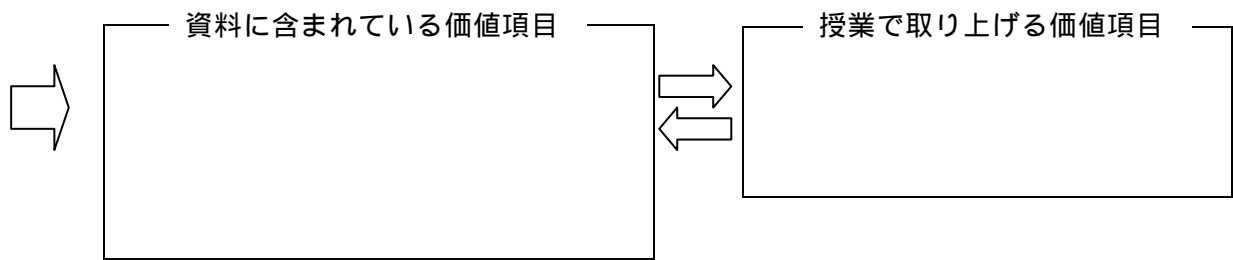
生徒の実態をふまえ、この時間にいったい何をねらっているのかを具体化する。

例)(資料の中の)主人公の について共感的理解を深めることを通して、(自分を
見つめて) として自分にできることは何かを考え、・・・しようという意欲を高
める。

授業のねらいは、「～を深める」「～を育てる」「～を高める」「～に気付く」など、授業を通して予測される生徒の意識の変化を表現しよう。

道徳の指導要領に記述されている価値項目をそのまま書き出したような記述はやめよう。

“この資料のここから考えてほしい”という授業者の思いが伝わるものにしたいですね。



😊 この「6千人の命のビザ」は読み返すたびに「杉原千畝さんはすごいなあ」と思います。道徳の授業のおもしろさを教えてくれた資料です。

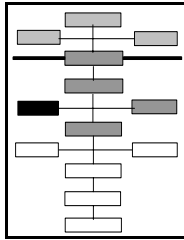
授業で取り上げる価値項目にかかわる生徒の実態

例) 家庭の事情で中国から転校してきたAさんに対して、手助けをしたいという気持ちはあるが、どう接してよいか分からず、遠くから心配そうに見ているだけの生徒が多い。

授業のねらい

例) (資料の中の) 主人公の について共感的理解を深めることを通して、(自分を見つめて) として自分にできることは何かを考え、・・・しようという意欲を高める。

E x 1 -



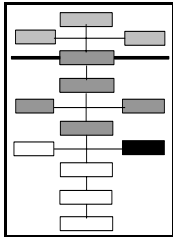
資料分析をする

内容：授業のねらいに迫るために、筋の流れ、主人公の心の動き、各場面の中で生徒に話し合わせたいところに分けて資料分析をする。

(理論編「発問」, E x 1 - p, 12 参照)

資料を熟読して、筋の流れ、主人公の心の動き、各場面の中で生徒に話し合わせ(意見を聞き)たいところに分けて、下の資料分析表に書いていこう。表に書き出すことによって、資料の内容や指導の重点箇所が整理できます。

筋の流れ	主人公の心の動き	各場面の中で話し合わせ(意見を聞き)たいところ



E x 1 -

授業のねらいに迫るための発問を考える

内容：授業のねらいに迫るために、資料分析表の筋の流れの場面ごとに、発問の意図を考え、発問を書く。(理論編「発問」, E x 1 - p, 10~13 参照)

生徒の実態、資料分析に基づき、資料分析表の筋の流れの場面に沿って発問を考え、発問の意図とそれに基づいて考えた発問を書き出そう。

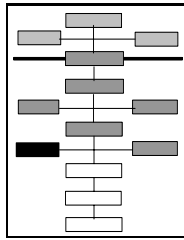


付箋紙に書き出すと、後で整理するとき便利です。

生徒の反応を予測し、生徒の立場にたって発問を考えよう。

発 問	発問の意図
<div data-bbox="260 730 815 913" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div data-bbox="895 714 1378 907" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>
<div data-bbox="260 1070 815 1254" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div data-bbox="895 1070 1378 1263" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>
<div data-bbox="260 1406 815 1590" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div data-bbox="895 1386 1378 1579" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>
<div data-bbox="260 1742 815 1926" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>	<div data-bbox="895 1727 1378 1919" style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div>

どういふ発問構成にする?・・・大いに悩むところだよね!!



E x 1 -

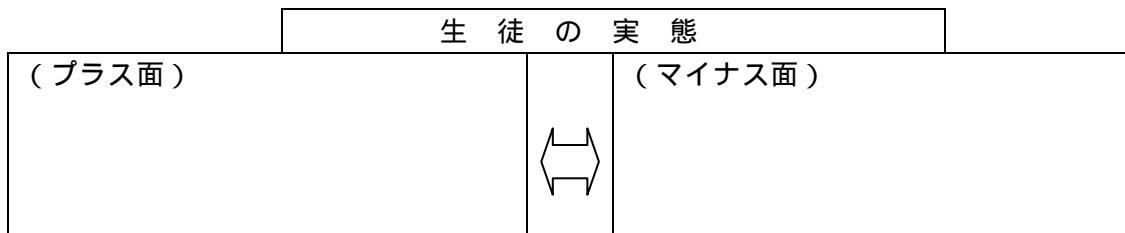
授業構想を考え、授業構想図を書く

内容： の資料分析表と で考えた発問に基づいて、授業構想を考え、授業構想図を書く。（理論編「資料」「発問」、E x 1 - p,13 参照）

E x 1 - と で考えた資料分析と発問に基づいて、授業の流れと押さえる内容を書き出してみよう。

授業の流れと押さえる内容

< 気づく・・・ねらいへの方向付け >



< とらえる・・・資料の提示、資料からの意見の発表・確認等 >

< 深める・・・資料を通して自分自身を見つめる、意見を交流する >

< 見つめる・・・もう一度自分の内面を見つめ、今後の生き方・行動を考える >

< 蓄える・・・心の中に蓄える >

< 注：上記の学習過程は一つの例示です >

学習の展開に合わせて、それぞれの発問に対する生徒の反応を考えてみよう。

😊 目の前の生徒の姿を思い浮かべ、

「この発問に対しては、あの子がこう言うな」とか

「この発問に対して、こういう意見やこんな意見が出てくるだろう」

「こんな意見がでたら、 さんに意見をつなげてまとめてもらおう」

というように、生徒の反応を予測してみると楽しいですよ。

発問を軸に学習活動を展開するために、どのような手だてや工夫をしていくかを考え、「手だて・指導上の留意点」の欄に書いていこう。

発 問	予想される生徒の反応	手だて・指導上の留意点



ここまでできるとほっと一息・・・？



例えば、こういう授業のねらいや発問が考えられます

(理論編「発問」参照)

授業のねらい 4 - (10) 国境を越えた愛	第二次世界大戦中、外務省の命令に背いて、ビザを発行した杉原千畝さんの生き方(生きる姿勢)を通して、世界の国の人々と接していくとき、今の自分にできることは何かを考え、実践しようという意欲を高める。
-------------------------------	---



	発問及び発問のポイント	予想される生徒の反応
発問 1	<ul style="list-style-type: none"> 杉原千畝さんは、外務省の命令に背いてまでビザを発行したが、自分が杉原さんと同じ立場だったら、どうしますか。それはどうしてですか。 <考えを深める、価値を引き出す発問>	<ビザを発行する立場> <ul style="list-style-type: none"> 家族もユダヤ人たちも同じ人間であり大切だ。 自分の心を家族も分かってくれるはずだ。 たくさんの方が救われるのなら、国の命令にそむいて外務省を辞めさせられてもよい。 目の前にいる大勢のユダヤ人を見捨てて自分たちだけ逃げることが自分にはできない。 ここで助けなかったら後ですごく後悔する。 <ビザを発行しない立場> <ul style="list-style-type: none"> ユダヤ人たちの命も大切だが、家族の命も大切だ。家族を守るために国外へ行くだけだ。 外務省の命令には逆らえない。
発問 2	杉原さんのユダヤ人への接し方や行動から、今までの自分を振り返って、世界の国々の人々と接していくとき、今の自分にできることは何だろうか。 <価値を自分の問題として受け止め、深く自己を見つめる発問>	<ul style="list-style-type: none"> どの国の人にも差別や偏見をもたないで、同じ人間として接する。 どの国の人でも同じ人間として尊重し合う。 今まで自分は、肌の色や言葉が違うと言うだけで何となくその人を変な目で見ていたけれど、これからはそういう偏見をしないでみんな同じ人間として接していきたい。 道ですれ違った外国人や一緒に勉強する外国人の子どもに対して、日本人と違うというだけで差別しない。同じ人間として接しなければならないことはわかっているけど、どう行動したらいいかわからない。今までの自分を急に変えることはできないが、少しずつ変えていきたい。



ねらいに沿ったものになっているか確認してみよう！！

他に、こういう授業のねらいも考えられます



中心となる道徳的価値の変更

4 - (1 0) 国境を越えた愛 ⇨ 世界平和、国際貢献

授業のねらい 4 - (1 0) 世界平和、国際貢	外務省の命令に背いて、ビザを発行した杉原さんの生き方を通して、 私たちが世界平和のために貢献できることはどんなことがあるだろうか。
-----------------------------------	--

😊 授業のねらいが変わると、発問が変わってきます。

発問が変わると、授業のゴールが変わります。

(ここでは、発問1はそのまま。発問2だけを変えました)

	発問及び発問のポイント	予想される生徒の反応
発問2	杉原さんの生き方を通して、自分たちが世界の平和のためにできることは何だろうか。 <価値を自分の問題として受け止め、深く自己を見つめる発問>	今までは世界の平和のためにと考えることは少なかったけれど、自分と家族の命を危険にさらしてでも自分にできることを一生懸命にやった杉原さんのことを知って、これからは世界の平和のために他の国の人たちと仲良くして協力していくようにする。 世界平和のために、(コンビニにある)募金をする。ユニセフの募金活動に協力する。 世界平和のために戦争に反対していく。

こういう発問も考えられますが・・・

ビザを発行する決意をするまでに、杉原さんの心はどのように動いていったかを考えよう。

日本領事館の周りを取り囲む大勢のユダヤ人を見たとき

外務省へビザ発行許可を求める電報を打ったとき

外務省からビザ発行禁止と国外退去命令の電報が届いたとき

という展開も考えられますが・・・。

😊 時間の流れに沿って、考えていくことができるので、資料の内容は理解しやすいのですが、資料のあらすじ追いになってしまう可能性が高い。

授業のねらいは何であったかを確認して、もう一度発問を考えてみよう！！

道徳？
国語？

あらすじ
追い？





例えば、こういう資料分析が考えられます

(理論編「発問」参照)

<資料分析例> 「6千人の命のビザ」

筋の流れ	主人公の心の動き	各場面の中で生徒に話し合いたい(意見を聞きたい)ところ	発問とその意図
<p>1、(1940年7月27日の朝) 日本領事館の建物の周りに、何百人ものユダヤ人が押し寄せる。</p> <p>↓</p> <p>ナチスの手を逃れるために、日本通過ビザの発行を要求。</p> <p>↓</p> <p>外務省にビザ発行許可を求めて3回電報を打つが、外務省からはビザ発行禁止との回答。 その間杉原千敏はさらに悩む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このままにはしておけないが、通過ビザ発行には外務省の許可が必要。 <p>↓</p> <p>(どうすべきか2日2晩悩む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外務省からビザ発行禁止命令が出されても、あきらめずに、外務省にビザ発行許可を求めめる。 ・ユダヤ人にビザを発行してやりたい。 ・家族の安全を考え、国外へ出てしまえばよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビザ発行許可を求めて外務省に電報を打つが、外務省からの回答はビザ発行禁止。その状況での杉原千敏の苦悩、心の葛藤。 	<p>1、杉原千敏さんは、「2日2晩悩んだ」というが、杉原さんが悩んでいたのはなぜだろうか。</p> <p>自分に救いを求めてきている多くのユダヤ人を目の前にして、杉原さんはビザを発行してやりたいが、外務省からはビザ発行は許可されない。その状況の中で、苦悩し葛藤する杉原さんの心に気付かせる。</p>
<p>2、外務省の命令に背いて、日本通過ビザを発行することを決意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外務省に背いて領事の権限でビザをだすことにする。 ・外務省を辞めさせられることを覚悟するがぬぐいきれない不安もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩んだ末、外務省の命令に背いて、領事の権限でビザを発行することを決めた杉原千敏の決意。 	<p>2、外務省の命令に背いてまでも、ユダヤ人にビザを発行することを決めた杉原千敏さんの心境はどんなだったと思うか。</p> <p>自分の職や家族の安全よりも多くのユダヤ人を助けることを優先した、杉原さんの国を超えた愛(生き方)に気付かせる。</p>
<p>3、(1940年9月1日の朝) ソ連と外務省からの国外退去命令を無視し、国外脱出ぎりぎりまでユダヤ人たちにビザを書き続ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝早くから夕方遅くまで、ビザを書き続ける。(できる限り多くの人を助けたい。) ・国外脱出ぎりぎりまで、できる限りビザを書いたが、それでも助けられない人がいたのは心残りだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソ連と外務省からの国外退去命令を無視し、国外脱出ぎりぎりまでユダヤ人たちにビザを書き続けた杉原千敏の国を超えた深い愛。 	<p>3、杉原千敏さんはどうして国外脱出ぎりぎりまでユダヤ人たちにビザを書き続けたのだろうか。</p> <p>国を超えて、できるだけ多くの人を助けたいと思って行動する、人間に対する愛の深さに気付かせる。</p>

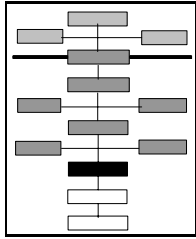
例えば、こういう授業構想が考えられます

(理論編「資料」「発問」参照)



<授業構想図例> 中心価値・・・4－(10) 国境を越えた愛

授業の流れと押さえる内容	発問	予想される生徒の反応	手だて・指導上の留意点
<p><気づく・・・わらいへの方向付け></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;">生徒の実態</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・世界中の人と仲良くしたい。</p> <p>・人種の違いを超えて同じ人間として接したい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>・言葉が通じないので、話すのをためらってしまう。</p> <p>・外国人というだけで接することをさけてしまう。</p> <p>・外国人というだけで差別してしまう。</p> </div> </div> </div> <p><とらえる・・・資料の提示、資料からの意見の発表・確認等></p> <p>[読み物資料の提示]</p> <p>[VTRの提示① (時代背景、杉原千敏さんの状況、決断)]</p> <p><深める・・・資料を通して自分自身を見つめる、意見を交流する></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;">杉原千敏さんの心の葛藤</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ビザを発行してやりたい (外務省の命令に背くしかない)</p> <p>・家族もユダヤ人たちも同じ人間であり大切な。</p> <p>・たくさんの人が救われるのなら、国の命令にそむいて外務省を辞めさせられてもよい。</p> <p>・大勢のユダヤ人を見捨てて自分たちだけ逃げることは自分にはできない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ビザを発行しない (外務省の命令には背けない)</p> <p>・ユダヤ人たちの命も大切だが、家族の命も大切だ。</p> <p>・家族を守るために国外へ行くだけだ。</p> <p>・外務省の命令には逆らえない。</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p style="text-align: center;">杉原千敏さんの決断</p> <p>多くのユダヤ人を助けるためにビザを発行する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>「わたしは外務省に背いて、領事の権限でビザを出すことにする。」</p> <p>「おおぜいの人たちの命がわたしたちにかかっている」</p> <p>「外務省を辞めさせられることを覚悟していました。」 (ビザの発行を決断 → 国境を越えた愛)</p> </div> </div> <p><見つめる・・・もう一度自分の内面を見つめ、今後の生き方・行動を考える></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>自分自身を振り返り、これからはどうしていくか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>自分自身を振り返り、どのように世界の国々の人と接していくか、今の自分にできることを考える。</p> </div> </div> <p><蓄える・・・心の中に蓄える></p> <p>[VTRの提示] (杉原千敏さんの決断の真意)</p> <p>ビザ発行を決断した杉原千敏の思いを知る。</p> <p>オープンエンドで終わる。</p>	<p>(・外国からの転校生が自分のクラスに転校してきたら、どう接するか)</p> <p>(・32000、2139って何だろうか)</p> <p>・杉原千敏さんは、外務省の命令に背いてまでビザを発行したが、自分が杉原さんと同じ立場だったら、どうしますか。それはどうしてですか。</p> <p style="text-align: center;">↑ 😊 (生徒たちが杉原千敏さんのおかれた緊迫した状況を自分のこととして考えるには、資料分析で考えた発問1と発問2よりは、自分の立場を明確にさせる方がよいと考え、上の発問に変更した。)</p> <p>😊 (資料分析で考えた発問3の意図は、自分はなぜその立場にしたか、その意見交換をする中で、発言されると考えたので、省略した。)</p> <p>・杉原さんのユダヤ人への接し方や行動から、今までの自分を振り返って、他の国の人々どう接していくことができるだろうか。</p>	<p>(・仲良くする。・親切にする。)</p> <p>・自分から声をかけていく。</p> <p>・どう声をかけたらいいかわからないのでさけてしまう。</p> <p>・外国人というだけで差別してしまう。)</p> <p><ビザを発行する立場></p> <p>・家族もユダヤ人たちも同じ人間であり大切な。</p> <p>・自分の心を家族も分かってくれるはずだ。</p> <p>・たくさんの人が救われるのならば、国の命令にそむいて外務省を辞めさせられてもよい。</p> <p>・目の前にいる大勢のユダヤ人を見捨てて自分たちだけ逃げることは自分にはできない。</p> <p>・ここで助けなかったら後ですごく後悔する。</p> <p><ビザを発行しない立場></p> <p>■ユダヤ人たちの命も大切だが、家族の命も大切だ。</p> <p>■家族を守るために国外へ行くだけだ。</p> <p>■外務省の命令には逆らえない。</p>	<p>・「外国からの転校生が自分のクラスに転校してきたら、どう接するか」考えさせ、個々の体験場面を振り返るきっかけとする。</p> <p>・杉原千敏が助けた人の子孫の教とビザを書いた枚数を提示し、この数字に関する人物に興味・関心をもたせる。</p> <p>・読み物資料の範読</p> <p>・VTRの視聴 (8分)</p> <p>○自分に救いを求めてきている多くのユダヤ人を目の前にして、杉原さんはビザを発行してやりたいが、外務省からはビザ発行は許可されない。その状況の中で、苦悩し葛藤する杉原さんの心について深く考えさせる。(ワークシート)</p> <p>○自分の職や家族の安全よりも多くのユダヤ人を助けることを優先した、杉原さんの国を超えた愛(生き方)に気付かせる。</p> <p>○同じ立場を選択した人との意見交換や違う立場を選択した人の意見を聞くことによって、いろいろな考え方があることを知り、自分の考えを広げさせる。</p> <p>○「世界の国の人々どう接していきたいか」、あるいは「杉原さんは日本人、ユダヤ人という意識をもっていたか」を糸口と考えさせる。(ワークシート)</p> <p>○VTR③から、ビザを書いたのは、人道的立場からである」と杉原さん自身が語っていることを押さえたい。</p>



E x 1 -

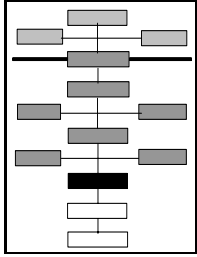
1時間の学習指導案（略案）を書こう

内容：授業のねらいに迫るために、 で作成した授業構想図に基づき、1時間の授業構想をまとめる。(理論編「資料」「発問」, E x 1 - p, 16~17 参照)

E x 1 - で考えた授業構想図に基づいて、発問を軸にして1時間の授業構想を学習指導案に表してみよう。

過程	学習活動と主な発問 (生徒の立場で書く)	予想される生徒の反応 (生徒の立場で書く)	時間	指導上の留意点 (教師の立場で書く)
きづく				
とらえる	資料から自分自身を振り返り、自分の内面を見つめる。			
深める	意見を交流させるーいろいろな考え方を知り、自分の考えを広げ、深める。			
見つめる	もう一度自分自身を振り返り、自分の内面を見つめ、今後どのようにしていくかを考える。			
蓄える				
評価の観点及び評価の方法(いつ、何を、何で)				

<注：上記の学習過程は一つの例示です>



E × 1 -

ワークシートを作る（必要に応じて）

内容：必要に応じて、生徒が自分自身を振り返るためのワークシートを作成する。

発問に沿った記入欄を作ろう。

生徒が自分自身を振り返り、自分について考えられるような欄を作ろう。

例) 私なら・・・。

主人公なら・・・。

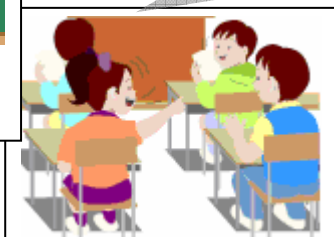
今日学んだことを、まだ見ぬ友だちに伝えるとしたら・・・。

ワークシートに書いた文章によって、生徒一人一人の意識の変容が確認できます。

ワークシート



さあ！道徳の授業を
やってみよう！！



どんな反応が返ってくるか楽しみです

わくわく？
ドキドキ？



例えばこういう指導案も考えられます

(理論編「資料」「発問」参照)

、主題名 国境を越えた愛 4 - (10)

資料名 「六千人の命のビザ」

(1, 主題設定の理由、2, ねらい、3, 指導方針、4, 指導計画は紙面の都合で除きます)
、本時の指導過程

1, ねらい・・・第二次世界大戦中、外務省の命令に背いて、ビザを発行した杉原千畝さんの生き方(生きる姿勢)を通して、国際人として今の自分にできることは何かを考え、実践しようという意識を高める。

2, 準備・・・読み物資料、VTR「六千人の命のビザ」(9分)、ワークシート

3, 事前指導

「心のノート」のp、120、121を拡大コピーしたものを教室の壁面に掲示しておく。

(道徳) VTR「六千人の命のビザ」(約35分)を視聴する。

4, 展開

(下線部分、生徒から引き出したい考え、思い)

過程	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点
き づ く	杉原千畝さんに興味関心をもつ。 ・外国からの転校生が自分のクラスに転校してきたら、どう接するか。 32000、2139って何だろうか?	自分はどうするかなあ? ・他の友達と同じように接する。 ・ちょっと尻込みしちゃうかなあ。 杉原千畝、32000、2139って何だろうか?	5分	身近に起こりうる場面を想定することにより、個々の体験場面を振り返るきっかけとする。杉原千畝がそのとき発行したビザの枚数と助けた人の子孫の数を出すことによって、杉原千畝に興味・関心をもつようにする。
と ら え る	1 読み物資料とVTR「六千人の命のビザ」から、杉原さんは何をした人かを発表する。 VTR「六千人の命のビザ」を見る。 杉原千畝について分かったことを発表する。	第二次世界大戦中にこんなすごい人がいたのだなあ。 <u>ビザを書いたことによってユダヤ人の命が助かった。</u> <u>ビザを書いたことによって外務省をやめさせられた。</u>	10分	杉原さんがしたことがどういうことにつながっていったかを考えながら読むように促す。教師による範読。黙読。VTRの視聴によって、読み物資料の内容、その当時の状況と緊迫感をつかませる。
深 め る	2, 外務省の命令に背いてまでビザを発行した杉原さんの思いを自分のこととして考える。 立場の明確化 ・ビザを書く。 ・ビザを書かない。	<ビザを発行する立場> 家族もユダヤ人たちも同じ人間であり大切な。その人たちを助けたいと思った。そういう自分の心を家族も分かってくれるはずだ。 <u>たくさんの人が救われるのなら、国の命令に背いて</u>	15分	自分に救いを求めてきている多くのユダヤ人を目の前にして、杉原さんはビザを発行してやりたいが、外務省からはビザ発行は許可されない。その状況の中で、苦悩し葛藤する杉

	<p>自分が杉原さんの立場だったら、あなたはどうしますか。また、それはどうしてですか？</p> <p><考えを深めるための発問></p> <p>自分はどちらの立場をとるかはっきりと意思表示する。</p> <p>その立場を選択した理由を発表し合い、考えを深める</p>	<p><u>外務省を辞めさせられてもよい。</u></p> <p><ビザを発行しない立場></p> <p>ユダヤ人たちの命も大切だが、家族の命も大切だ。家族を守るために国外へ行くだけだ。</p> <p>外務省の命令には逆らえない。</p>	<p>原さんの心について深く考えさせる。(ワークシート)</p> <p>杉原さんの国を超えた愛(生き方)に気づかせる。</p> <p>同じ立場を選択した人との意見交換や違う立場を選択した人の意見を聞くことによって、いろいろな考え方があることを知り、自分の考えを広げさせる。</p>	
見 つ め る	<p>2, 自分自身を振り返り、どのように世界の国々の人と接していくか、今の自分にできることを考える。</p> <p>杉原さんのユダヤ人への接し方や行動から、今までの自分を振り返って、他の国の人々とどう接していくことができるだろうか。</p> <p>今までの自分を振り返って、ワークシートに自分の考えを書く。</p> <p>数名の生徒が自分の意見を発表する。</p>	<p>どの国の人にも<u>差別や偏見をもたないで、同じ人間として接する。尊重し合う。</u></p> <p>今まで自分は、<u>肌の色や言葉が違うと言うだけで何となくその人を変な目で見ていたけれど、これからはそういう偏見をしないでみんな同じ人間として接していきたい。</u></p> <p>みんな同じ人間として接する方がいいことはわかるが、なかなか実行できない。</p>	15 分	<p>自分の考えをワークシートに書くことによって、自分自身を振り返らせる。</p> <p>「世界の国の人々とどう接していきたいか」、あるいは「杉原さんは日本人、ユダヤ人という意識をもっていたか」を糸口に考えさせる。</p> <p>机間巡視をしながら生徒の意見を把握し、考えを広げられるような意見の生徒を意図的に指名する。</p>
蓄 え る	<p>3, VTR 「6千人の命のビザ」(抜粋)を観て、杉原千畝の思いを知る。</p>	<p>そうか杉原さんは、<u>人間としてユダヤ人たちを見捨てることができなかったから、ビザを書いたのだ。</u></p> <p>杉原さんにビザを発行してもらった2人の方の言葉から、杉原さんの偉大さが伝わってきた。</p>	5 分	<p>VTR から、ビザを書いたのは、人道的立場からである」と杉原さん自身が語っていることを押さえたい。</p> <p>(オープンエンド)</p>

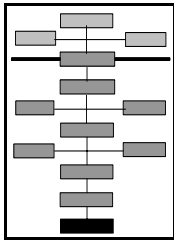
5, 評価の観点

外務省の命令に背いて、ビザを発行した杉原千畝さんの生き方を通して、国際人として今の自分にできることは何かを考え、実践しようという意欲を高めることができたか。

ワークシートの記述内容からー

発問の内容及び発問構成は、授業のねらいを達成するために有効であったか。

観察、発表された意見、ワークシートの記述内容からー



E × 1 -

授業を振り返って、授業評価をしよう

内容：次の授業につなげるためにも、授業を振り返って授業評価をしよう。

(☞右のページに記入してください)

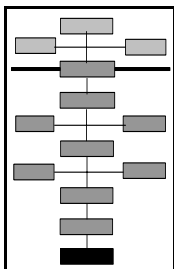
自分の心にひっかかった生徒の発言を書き出してみよう。

授業のねらいに照らし合わせて、授業のどの点がどうだったかを書こう。

上記の、の中から、特に次の授業に生かしたいことを書こう。

(あれもこれもではなく、的を絞って・・・)

- 😊 「あの子のこの発言から授業が深まっていったなあ。」
 「この子は授業のねらいに対して深く考えていることが、この発言からわかった。」
 「あの子のこの発言から、授業のねらいからずれていったなあ。」
 「この子の発言は、発問の意図からはずれているなあ。」



E × 1 -

他の関連価値や他の教科、領域とつなげるとすれば、どう組み立てるかを考える

内容：この授業で取り上げた価値項目を他の価値項目とつなげるとすれば、どのように組み立てていくかを考える。あるいは、総合単元的道徳を構想していくとしたら、他の教科、領域とそのように関連させて組み立てていくかを考える。

(☞右のページに記入してください)


この授業で取り上げた価値項目を他の関連価値（他の教科、領域）とつなげていくと、生徒はもっと深く考えるようになります。

その関連する価値項目は、生徒の実態や学校の実態によって変わってきます。でも、何でもいいからつなげればよいというものではありません。よく考えて組み立ててみよう。関連する価値項目（他の教科、領域）をつなげることによって、全体で特に何を生徒につかませたいのかも書いてみましょう。

授業評価 (自分の心にひっかかった
生徒の発言を書き出してみよう)

授業評価 (特に次
の授業に生かしたい
ことを書いてみよう)

授業評価 (授業のねらいから考えて、
気付いたことを書き出してみよう)



客観的に自分の授業を見つめるって
すごくつらいけれど・・・大事な

関連する価値項目 (他の教科、領域) をつなげて、構成してみよう

全体としてつかませたい価値項目は？

どうつなげていく？

< 例えば、こういう価値項目の関連の仕方が考えられます >

